

海外感染症流行情報 (2011年1月号)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・北半球での季節性インフルエンザの流行

北半球では本格的な冬の到来を迎えて季節性インフルエンザの流行が拡大しています。

英国では2010年12月からH1N1型の患者が急増しており、死亡者数も今季は1月初旬までに100名以上に達しました。2011年1月第2週の時点で流行は沈静化の傾向にありますが、北アイルランドではさらに患者数が増加している模様です（英国保健省 2011年1月13日）。http://www.hpa.org.uk/web/HPAwebFile/HPAweb_C/1294739353955

日本でも2011年1月より全国的にH1N1型の患者が増加しており、とくに沖縄では本格的な流行期に入りました。なお今季は香港型（H3N2型）の患者も発生しています（厚生労働省 2011年1月14日）。

<http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/houdou/2011/01/dl/infuh0114-01.pdf>

・エジプトで鳥インフルエンザの患者が多発

エジプトでは2010年12月から鳥インフルエンザ（H5N1型）の患者が連続して発生し、2011年1月中旬までにその数は7人になりました。このうち3人が死亡しています（WHO Global Alert and Response 2010-12-29, 2011-1-5, 1-13）。いずれも家禽からの感染と考えられています。

2010年は全世界で48人の鳥インフルエンザ患者（H5N1型）が発生しており（WHO Global Alert and Response 2011-1-13）、うち29人はエジプトの患者です。この国では家禽に接触しないなどの注意が引き続き必要です。

・ハイチでのコレラ流行

ハイチではコレラの大規模な流行が続いており、2010年末まで患者数は17万人になりました（厚生労働省検疫所 2011-1-14）。また致死率も2.4%と高く、通常のエルトル型に比べて病原性が高い可能性も示唆されています（Pro MED 2010-12-14）。

米国ではコレラワクチンが認可されていないため、CDCはハイチに滞在する者に対して、抗菌薬（ドキシサイクリン、アジスロマイシン）を持参し、現地で下痢症状がみられたら服用するよう指導しています（CDC Travelers' Health 2010-12-21）。

ハイチには日本からも政府職員や援助団体の職員が数多く滞在中であり、滞在中は飲食物への十分な注意が必要です。コレラワクチンは日本でも認可されていませんが、医師の個人輸入で入手できます。ワクチンは1週間隔で2回経口接種し、1年間は60%以上の予防効果があります。

・東アフリカのウガンダで黄熱が流行

ウガンダ北部で 2010 年 10 月より原因不明の熱病患者が発生していましたが、この原因が黄熱の流行であることが判明しました(CDC Travelers' Health 2011-1-6)。同国では 1970 年以来の流行で、1 月中旬までに約 190 人の患者が確認され、うち 50 人近くが死亡しています。

黄熱は蚊に媒介される熱性疾患で、先進国の旅行者が感染した場合、致死率は 50%近くに達します。ウガンダに滞在国する者は、たとえ短期間であってもワクチン接種を受けておくことを推奨します。

・インド西部でのマラリア

インド西部のムンバイやゴアでマラリア患者が発生しています (Pro MED 2010-11-22, 2011-1-12)。これらの都市ではビルの建設工事が盛んになっており、工事現場の水溜りで蚊が増え、それが流行をおこしているとの見方もあります。なお、インドの都市部に滞在する旅行者にはマラリアの予防内服を推奨していませんが、滞在中や帰国後に発熱がみられた場合は、早めに医療機関を受診しマラリアの検査を受けることが必要です。

・米国での西ナイル熱流行状況

米国では 2010 年に 979 人の西ナイル熱患者が発生し、うち 43 人が死亡しました (Pro MED 2010-12-22)。地域別ではアリゾナ州、ニューヨーク州、カリフォルニア州などで患者発生が多くなっています。

2006 年の患者数は 4269 人であり、その当時に比べると流行はかなり沈静化している模様です。しかし、米国での感染リスクは依然として存在することから、同国に夏季滞在する際は蚊に刺されないように注意する必要があります。